森と光が織りなすうるおいのまち伯耆町

家庭教育ハンドブック

中期編

～自分からすすんで学ぶ子どもを育てる～

監修／国立大学法人鳥取大学　副学長　矢部　敏昭

伯耆町教育委員会

監修に当たって

伯耆町教育委員会の努力により，ここに「家庭教育ハンドブック」が刊行されることを大変うれしく思います。輝く未来を生き抜く子ども達のために作られたこのハンドブックが，伯耆町のお子様を持っているご家族の家庭教育に生かされ，伯耆町の未来を担う子ども達の健やかな成長の一助になることを心から願うものであります。

子ども達の「自立」に向けて，この時期に大切なのは家庭の中で自分の役割や自分がやらなければならないことに対して，より良く事を為す習慣を身に付けることです。それは，もし子ども達の学びに向かう力が教育によって育まれるならば、それは基本的な生活習慣を身に付けることだからです。自分のできることを少しずつ増やす過程は，自分の中に自分はやればできるという可能性を拡げ，その成長の足跡は子ども達の自信と心の強さを育むことにつながります。

よりよく事を為す習慣は，子ども達自身の存在が家族や仲間のために自分を生かしていること，また自分が生かされていることに気付くと同時に，次第に自分の居場所と心の支えになっていきます。子ども達の小さな壊れやすい存在は，仲間や社会というつながりの中で支えられ，そして，一番身近な家族というつながりの中で支えられます。

「自立」へ向けた過程は，学びに向かう力（“考える知性”と“感じる知性”）という心の土壌を耕し，子ども達の将来に向けた様々な可能性の芽を育むことにつながると思われてなりません。

平成 28 年 12 月
国立大学法人鳥取大学
副学長　矢部　敏昭

もくじ

・保護者のみなさまへ …… 3
・家庭教育のめざすところ …… 4
・小学校５年生 …… 6
・小学校６年生 …… 8
・中学校１年生 …… 10
・伯耆町の学校教育 …… 12
・特　集 …… 14

保護者のみなさまへ

「心が安らぐ楽しい家庭」は，子ども達の成長にとってかけがえのないものであり，家族だれもが望んでいるものです。子ども達ができることが，ひとつずつ増えるたびに，家族みんなでよろこび合う，そんな笑顔があふれる家庭をだれもが求めています。

それに加えて，家庭は学校，地域社会とならんで，子ども達が育つための学びの場でもあります。子ども達は，生まれてから，家庭で最初に学び始め，その後もずっと家庭に帰ってからも学びます。子ども達は，空気を吸うように，家庭からとても大きな影響を受けて成長していきます。その意味で，教育の原点は家庭にあるといわれています。

私たち大人は，子ども達の自立に向けて，家庭・学校・地域社会がスクラムをくんで，それぞれの役割を果たしていく必要があります。伯耆町の子ども達を，みんなで見守り，みんなで育てていきましょう。

この『家庭教育ハンドブック【中期編】』は，小学校５年生から中学校１年生の子どもを持つ，保護者や家族の方を対象につくられました。今後，子ども達の成長に応じて，【後期編】（中学校２年生～中学校卒業後）を手にしていただくことになります。

教育には，決してマニュアルはありません。みんなが手さぐりで子ども達と接しています。苦労はないとはいいませんが，子どもの成長を実感したときの喜びはひとしおです。この冊子を折にふれて開いていただき，少しでも子育てのヒントを読みとって，保護者のみなさまオリジナルの『家庭教育ハンドブック』をつくる助けとなればと願っています。

お問い合わせ先

伯耆町教育委員会事務局

所　在　地　〒689-4292
鳥取県西伯郡伯耆町溝口647
電話番号　0859－62－0927
ホームページ　http://www.houki-town.jp/

家庭教育のめざすところ

家庭で自分からすすんで学ぶ子どもを育てる

大人になることは，「自立」することです。経済的な自立と同時に，精神的にも自立した人を「大人」といいます。「自立」するためには，多くのことを身につけなければなりません。そのために人は学びます。「学び」とは，狭い意味の勉強も含みますが，ここではもう少し広い意味があります。例えば，逆上がりができるように練習することも，友達との関係がうまくいくように考えることも，「学び」といえます。「学び」とは，今の自分に足りないこと，これからの自分に必要なことをわかったうえで，自分ができることを，新しくつけ加えていくことです。できることがつけ加わることも大切ですが，つけ加えるように努力するプロセスにも意味があります。学校教育を卒業し，「社会人」ともなると，自分からすすんで学ぶことが求められます。私たち大人は，自分からすすんで学べるように，子ども達を教育する必要があります。そして，子ども達が，「自立」に向けてどれくらい育っているのか，家庭での「学び」のようすを見ながら判断していくことが大切です。

学ぶ意欲を高める

「意欲」，「やる気」，「モティベーション」，いろいろないい方がありますが，自分からすすんで学ぶ子どもを育てるうえで，とても重要な要素です。学習意欲が高まるのは，主として次の３つのケースが考えられます。

1. **学ぶことで，自分が信頼する人と関わりがもてるのがうれしい。**
2. **学ぶことで，わかること，できるようになることが楽しい。**
3. **学ぶことで身についたことが，自分にとって役に立つと信じている。**

この①～③の３つがからまって，学ぶ意欲が高まっているのですが，この【中期編】で特に注目していくのは，②の学ぶこと自体の楽しさです。

この時期の子ども達は，思春期の前期にさしかかり，「自立」に向けて自分自身の組み換えを始めます。この「自分探し」ともなって興味関心が多方面に広がります。一方，学校の授業内容は抽象度がましていき，算数が数学となるように，いわゆる「学問」へと近づいていきます。このような心理的な変わり目と学習内容の変わり目を頭に入れて，両者のマッチングをうまくはかることがキーポイントになります。

特集 「中1ギャップ」とは？

みなさんは，「中１ギャップ」という言葉をご存知でしょうか。学校が報告する「問題行動等調査」の結果を学年別にみたときに，小６から中１で「いじめ」や「不登校」の報告件数が急増することから，この言葉が広く使われるようになりました。そして，急増の理由として，小学校と中学校の間に大きな「壁」や「ハードル」となることがあり，それが問題を引き起こしているのだといわれてきています。それを一言で表したのが「中１ギャップ」です。

確かに小学校と中学校の学校環境をみると，学級担任制と教科担任制，部活動の有無など，いくつかの違いがあります。また，複数の小学校出身者が集まることで，新たな人間関係づくりが必要となる面もあります。そこにつまずく生徒があることも事実です。

その一方で，中学校で表れてくる問題行動は，実は小学校から始まっているということも認識すべきだと思います。例えば，いじめを受けたことがあるという子ども達の被害経験率は中学校よりも小学校が高い数値を示しています。また，中１の不登校生徒の半数は小４～小６のいずれかで年間 30 日以上の欠席をしていますし，年間 15 日以上ともなると 75 ～ 80%にのぼります。

ここで，大切なことは，小学校での予兆を見取り、先送りしないこと，小学校での予兆をきちんと中学校でもつかみ対応することです。そこで，小中連携・一貫教育は大きな役割を負っていると考えます。

鳥取大学副学長 矢部敏昭教授がすすめる「教育スタンダード 望ましい保護者のあり方」

- 学校での様子や友達関係について，親子で会話する。
- 勉強のしかたや成績について，いつも相談にのる。
- 礼儀作法，秩序，道徳観について，いつも親子で話し合う。
- 子どもの夢や将来について，いつも親子で話し合う。
- 学習計画を子どもが立てられるように，いつも関わる。
- 家族で共有する時間をもち，家庭でのコミュニケーションを大切にしている。
- 日常的に，家の手伝いや役割を子どもにもたせている。
- 子どもが，自然にふれたり，体験したりする機会を定期的にもつようにしている。

大山放牧場（小林）
撮影者：後藤　栄

小学校 5年生

小学５年生の時期の特徴

・一人前に接してもらっているか，大切にされているかなど，大人の評価が気になります。
・自分を客観的に見つめたり，友達と自分をくらべたりするようになります。
・考える力も大人並みになり，時には大人への反抗も見られます。
・得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
・先生や家族のアドバイスにより，学習に対する興味，関心が大きく左右されます。
・授業では，家庭科と外国語活動が始まります。

伯耆町の子ども達がつまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～

国　語

●目的に応じて，文章の内容を的確にとらえたり，事実と意見などとの関係をおさえたりして，自分の考えを明確にしながら読むことができる。
●登場人物の関係や心情，場面の描写をとらえて，すぐれた表現について自分の考えをまとめることができる。
●敬語の使い方について理解している。

算　数

●分数の分母と分子に同じ数をかけたり，わったりしてできる分数は，元の分数と同じ大きさであることを理解している。
●分子が１で分母の異なる分数の大小を比較することができる。
●小数第二位×小数第一位の計算ができる。
●帯グラフの割合を読んで人数を求めることができる。
●四角形の内角の和が３６０°であることを理解している。
●三角柱の展開図を描くことができる。

家庭学習のポイント

学習時間のめやす：70分～80分

家庭学習を始める前に

保護者チェック欄 □

①学習をする場所の整理整頓をする。
②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。
③今日の宿題と明日の授業の準備を自分で確かめる。

宿題と自主学習をバランスよくできる子ども

授業の内容を振り返りながら，教科書やノートを参考にして，苦手な教科にも粘り強く取り組めるようにアドバイスしましょう。また，自主学習は好きな教科，得意な教科から始め，毎日，取り組むようにさせましょう。

「手伝い」で生活を変える

家族の
みんなに
ほめてもらえるから
毎日のお手伝いは
とっても楽しいな！

「どうしたら部屋の片づけできるのでしょうか」世の中の多くの親はこの悩みをかかえています。「見るに耐えない状態にも関わらず，手を出すと子どもがおこりだす」といった声もよく聞かれます。

これは，「自分のことは自分でする」などのしつけがなされていないことの結果だといえます。子ども達の自立のためにも，今一度，しきり直しをする必要があります。

小学校高学年といえば，学校では家庭科も始まっています。家事の何かを任せて取り組ませることがよいのではないでしょうか。最初はうまくいかないこともあるでしょうが，できるようになった達成感，家族にとっての役立ち感を感じることで，自信と責任をもてるようになればしめたものです。

本当に必要ですか？ 携帯電話

全国的には，小学校高学年から中学校入学の時期に，子どもにせがまれて親が携帯電話をもたせることが多いようです。もたせた理由として，「送り迎えの連絡がとりやすく便利だから」「居所がわかるので安心だから」といった電話機能が多くあげられています。

ところが，「電話」としてもたせたはずなのに，「ネットいじめ」を受けて学校に行けなくなったり，悪質なホームページで法外な請求をされたりといったトラブルが生じている実態があります。これは，携帯電話に限らず，パソコンや通信機能付きゲーム機や音楽機器の利用によっても生じることです。便利で楽しいはずの情報機器が凶器となることが問題となっています。

これらの情報機器を安易に子どもにあたえることはやめてください。また，仮にあたえたり，使用させたりする場合には，フィルタリング機能を設定し，使用の目的，場所，時間などを限定するルールを決め，守らせるようにしてください。

町内の小中学校では，携帯電話等を学校に持ち込むことを原則として禁止しています。

菜の花とJR（岸本）

小学校 6年生

小学6年生の時期の特徴

・児童期から思春期へと移る時期です。身体的にも大きく成長するとともに，第二次性徴が明らかになってきます。また，性差による体力や運動能力の違いが大きくなる時期です。
・異性としての意識が強くなります。羞恥心が出てきて，体面を気にしたり，見栄を張ったりすることが目立ちます。また，仲間内とそれ以外で違う行動をすることもあります。
・自分の心の中を見つめることが増え，抽象的な思考をするようになります。

伯耆町の子ども達がつまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～

国　語

●目的に応じて，文章の内容を的確にとらえたり，事実と意見などとの関係をおさえたりして，自分の考えを明確にしながら読むことができる。
●登場人物の関係や心情，場面の描写をとらえて，すぐれた表現について自分の考えをまとめることができる。
●敬語の使い方について理解している。

算　数

●文章を読んで，整数÷分数の式をつくることができる。
●分配法則を使って，異分母の分数の計算ができる。
●比を用いて，ひとつの量から他の量を求めることができる。
●線対称の意味を理解し，正六角形のある対角線を対称の軸とみたとき，対称となる角を選ぶことができる。

家庭学習のポイント

学習時間のめやす：80分～90分

家庭学習を始める前に

保護者チェック欄 □

①学習をする場所の整理整頓をする。
②学校からのプリント類をその日のうちに親に手渡す。
③宿題を自分で確かめ，やる順番を決める。

宿題と自主学習をバランスよくできる子ども

学校が終わってからもやるべきことがますます多くなる時期です。１週間の予定を見ながら，見通しをもって生活するためにも予定表と計画表をつくり，家庭学習の時間を確保する習慣をつくることが大切です。また，今一度，基本的な生活習慣のチェックを行い，よい生活リズムで生活ができるよう話し合いましょう。

感動する本との出会いを

読書は，想像力や考える力を身につけ，豊かな感性，思いやりの心をはぐくんでくれるものです。テレビやマンガが好きな子どもにも，本を読む時間をもつように家庭でも習慣をつけてください。

そのためには，親子で「読書の時間」を設ける，親子で図書館に行く，親子で読んだ共通の本について感想を話しあう，といった工夫が考えられます。いちど，読書の楽しみをおぼえてしまうと，それからは放っておいても本に親しむようになると思います。

学校図書館，町立図書館では，職員がさまざまな工夫をこらし，子どもや町民の読書活動がすすむように取り組んでいます。機会があればのぞいてみてください。

「いじめ」をしない子どもを育てる

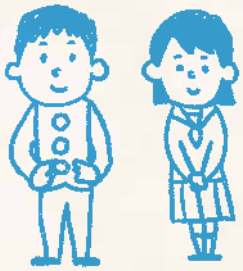
いじめは，弱い立場の子どもや，安易にまわりに同調しないため「異質」とみなされた子どもなどを標的にする，人間として恥ずかしい行いです。「いじめられる側にもそれなりの理由がある」というのは，いじめを認める側の勝手な言い分にしかすぎません。

いくら軽い遊びや悪ふざけ，ジョークのつもりでも，いじめられる側の苦しみや痛みは深刻であることを想像させましょう。そして，いじめることは，人間として決して許されないことであり，いじめをはやし立てたり，傍観したりすることも同じであるということを，家庭の中できちんと話し合いましょう。そして，自分の子どもがいじめをしているとわかったら，すぐにやめさせてください。

また，いじめている子どもの中には，強いプレッシャーを受けている場合もあり，いじめられる側がいじめる側に逆転したという場合もあり，複雑な状況もあります。そうなる前に，早期に発見して早期に対応することが何よりも大切なのです。

岩立神社の巨樹群（岩立）
撮影者：後藤　栄

中学校 1年生



中学１年生の時期の特徴

・いわゆる「思春期」であり，心と体の成長がアンバランスになりがちで，不安や悩みを抱えやすくなります。
・家族に依存したいという気持ちと，家族から自立したいという気持ちが混在します。
・矛盾する大人の態度に反抗的になります。また，同年代の仲間の影響を強く受けます。
・他人から見た自分を意識し，他人とくらべて落ち込んだり，無理に合わせようとすることがあります。
・小学校とはちがう新たな中学校生活が始まり，教科の内容が組み変わります。特に，部活動が生活に占める割合が大きくなります。

伯耆町の子ども達がつまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～

国　語

●話題の方向をとらえて的確に話をしたり，相手の発言を聞いたりして，自分の考えをまとめることができる。
●場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容を理解することができる。
●単語の類別や文節について理解している。

数　学

●分配法則を用いる文字式の計算ができる。
●正負の数の減法の計算ができる。
●（ ）を含む１次方程式を解くことができる。
●文章を読んで，方程式の「ｘ」が何を表しているか理解できる。
●２つの線分に接する円を描くために必要な作図を理解している。

英　語

●英文の単語や語句を正しく聞き取ることができる。
●場面に応じた基礎的な語句や表現を使ってやりとりすることができる。
●英語のつづりを見て，発音，イントネーションに気をつけながら，正しく単語を読むことできる。
●単語を正しく書くことができる。

家庭学習のポイント

学習時間のめやす：100分～110分

宿題と自主学習をバランスよくできる子ども

保護者チェック欄

中学校生活が始まってしばらくは，宿題をこなすだけで精一杯という状態が多いと思います。小学校高学年で自主学習にも取り組み，ある程度の時間の家庭学習ができていることが生きてきます。宿題だけの家庭学習から，徐々に自分で工夫して自分なりの家庭学習にしていく必要があります。家庭での勉強の仕方について，経験をもとにアドバイスをしていきましょう。

自分で考え
自分で行動できる人に
育ってほしいなら

子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保護），あれこれ指示をしたり（過干渉）するのではなく，子どもが好きなものを見つけるまで待ち，できるだけ子どもの力を信頼し，それを見守り，力づけるようにしましょう。あれこれしないで見守ることは，モノを買いあたえたり，何かをしてやったりするよりも，ずっと難しく愛情がいることです。

また，親は自分が子どものために考えたことは正しいと思いがちですが，必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつけるのではなく，「あなたはどう思う」と，まず子どもの言い分をじっくり聞き，気持ちをしっかりと受けとめてから，「自分はこう思うんだが」といっしょに考え，いっしょに学んでいく姿勢が大切です。

子どもが自分で考え，勇気をもって行動し，達成感を味わう，または，失敗から学び強くなるチャンスを，子どもから奪わないようにしましょう。

子どもの考えを尊重し，
子どもの意見をしっかり
聞きましょう。

寝る子は育つ

毎日，一定の睡眠時間（できれば７～８時間）をとらないと，集中力が低下したり，体内時計に変調をきたしたりするようです。また，睡眠と成長ホルモンの分泌の関係は医学的にも解明されています。

といっても，部活が遅くまであり，帰ってから宿題等の家庭学習と，中学校生活は忙しいものです。となると，生活を見直して，時間の有効利用を心がけるしかありません。乱雑な部屋で，さがしものだけで時間を費やすなんてありえないことですね。

桝水高原（岩立）
撮影者：後藤　栄

伯耆町の学校教育

「地域とともにある学校づくりを基盤とした保小中一貫教育の推進」

本町の小中学校の教育のキーワードは，「保小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」です。この２つについて保護者の皆様にもご理解をいただきたいと思います。

「保小中一貫教育」

本町の２つの中学校区（岸本中学校区・溝口中学校区）では，保育所，小学校，中学校の保育士・教職員が話し合いをもち，義務教育修了までにどのような子どもを育てるのか（これを「目指す人間像」と呼びます）を共有して，日々の保育・教育に取り組もうとしています。特に，小学校と中学校では，どの時期に，どのような内容を，どのような方法で教えるのか（これを「一貫カリキュラム」と呼びます）について，おたがいに理解しあった上で，学力がより確実に定着するための工夫をして授業を行っています。また，総合的な学習の時間をつかって，地域のことについて学ぶ「地域学習」と自分の生き方について学ぶ「生き方学習」（これらをあわせて「伯耆Ｉ学習」と呼びます）を，各学校で共通して実施しています。広い意味での学力である人間力を育てようとするねらいがあります。このように，保育所から義務教育９年間を通して，一貫性をもった教育を行うことから，保小中一貫教育といわれています。

「コミュニティ・スクール（ＣＳ）」

平成 30 年度から，本町のすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されます。学校は，校長を中心として運営されていくのですが，そこに保護者や地域の方々，専門的知識をもつ方々の視点を取り入れていくのがコミュニティ・スクールです。複数のメンバーで構成される学校運営協議会が設置され，校長の運営方針について協議し，承認を行います。また，教職員人事について意見を述べることもできるしくみになっています。本町では，学校が抱える課題について話し合ったり，学校に対して地域や保護者の方々がどのように協力できるのかを話し合ったりすることが行われています。コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」の中心となる取組です。

他にも，本町には次のような組織があります。

「伯耆町ＣＳネットワーク会議」

各コミュニティ・スクール（ＣＳ）の間の横のつながりを形づくるために，中学校区ごとに３校ずつで，中学校区ＣＳネットワーク会議を開いています。各学校の学校運営協議会の代表者３名ずつが集まり，中学校区の「目指す人間像」を共有し，その実現に向けて話し合いを行います。さらには，２つの中学校区を超えて取組について情報交換を行い，伯耆町全体としての「目指す人間像」を共有していくために，各中学校区のネットワーク会議のメンバーで，伯耆町ＣＳネットワーク会議を組織しています。コミュニティ・スクールの取組の中に，保小中一貫教育の視点を取り入れて，地域総ぐるみで子ども達の育ちを支えていくことをねらっています。

「学校支援地域本部」

本町の学校では，多くの地域ボランティアの方が，授業で子ども達に関わったり，登下校で子ども達を見守ってくださったりしています。このような学校教育を地域の方々が支えてくださる組織を学校支援地域本部とよんでいます。地域ボランティアの方はそれぞれの得意分野で登録をしていただいています。その中から，学校の要望に応じて支援をしていただくわけですが，学校と地域ボランティアの間をとりもって調整をする役割が必要になります。それがコーディネーターです。現在，教育委員会事務局に地域コーディネーターを１名配置し，各学校にも１名ずつの学校支援コーディネーターを配置しています。今後は，学校と地域がお互いに支援・貢献できるようなパートナーとなる方向を考えています。

「家庭教育支援チーム」

保育所から中学校までの幅広い保護者の皆様に，家庭教育の役割について再確認していただき，子ども達の育ちに積極的に関わっていただくために，家庭教育支援チームが組織されています。福祉課と教育委員会事務局が連携しながら，家庭における子育てについてさまざまな視点からアドバイスを行うこととしています。構成メンバーも，家庭教育推進員，保健師，子育て支援センター･教育支援センター職員，スクール・ソーシャル・ワーカー，スクール・カウンセラーと専門的な職能をもっています。

特集 各種全国調査からみた本町の児童の特徴

子ども達の学力と体力の状況をつかみ，今後の施策にいかすための全国調査が毎年行われています。小学校においては，５年生で『全国体力・運動能力，運動習慣等調査』が，６年生で『全国学力・学習状況調査』が実施されます。それぞれの調査には質問紙による調査もあり，子ども達が自らの生活等について回答します。年によって子ども達の実態は変わりますが，過去６年間の全国平均との比較によってみえてきた本町の子ども達の特徴についてピックアップしました。あくまでも「傾向」といったところのデータであり，学校や家庭，地域で子ども達の様子をみるときの目安としてとらえていただきたいと思います。

『全国学力･学習状況調査』の質問紙調査から

マイナス傾向が強い質問項目

※（　）内は平成 27 年度

- 毎日，同じくらいの時刻に起きていますか。（93.7%）
- ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがありますか。（90.6%）
- 自分にはよいところがあると思いますか。（75.8%）
- 将来の夢や目標を持っていますか。（81.0%）
- 学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日）１日あたりどれくらいの時間，勉強をしますか（塾を含む）。（1 時間以上 53.7%）
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしていますか。（75.8%）

数値そのものは低くはないものの，全国平均と比較したときに本町が低い傾向にある項目が見られます。中でも，「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」といった意欲につながる項目の数値が高くなるように取り組む必要があります。また，「家庭学習を一定時間がんばること」は，数値そのものが低く，小中を通しての課題となっています。

プラス傾向が強い質問項目

※（　）内は平成 27 年度

- 朝食を毎日食べていますか。（96.9%）
- 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。（77.9%）
- 普段（月～金曜日），１日あたりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか。（1 時間以上 49.5%）
- 学校の授業以外に，普段（月～金曜日），１日あたりどれくらいの時間，読書をしますか。（30 分以上 41.1%）
- 本を読んだり，借りたりするために，学校図書館や地域の図書館へどれくらい行きますか。（週に１回以上 27.4%）
- 今，住んでいる地域の行事に参加していますか。（80.0%）
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。（70.5%）
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。（49.4%）
- 新聞を読んでいますか。（週に１回以上 31.6%）
- 学校のきまりを守っていますか。（94.7%）

朝食を毎日食べることについては，数値が高く良い傾向にあります。読書の時間や図書館へ行く回数が多く，読書への関心が高いことが見えます。地域の行事に参加し，地域のことに関心をもつ傾向は顕著で，地域との絆の強さがうかがわれます。

実技調査として次の８種目が行われます。

『全国体力・運動能力，運動習慣調査』から

握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20mシャトルラン，50m走，立ち幅とび，ソフトボール投げ

過去５年間の５年生の結果をみると，男子については，全国平均をこえた種目が１種目か，全くないという年が目立ちました。その中でも，「20 mシャトルラン」は全国平均をこえた年が３年ありました。また，女子については，平均３種目程度は全国平均をこえる種目がありました。中でも，「反復横とび」と「シャトルラン」は，過去５年間のうちで全国平均をこえた年が４年あり，「ソフトボール投げ」は３年でした。

本町の児童・生徒の体力・運動能力の数値が低い傾向にあることは否定できない事実であり，学校でも体力向上推進計画をつくって取組をすすめているところです。同じ学年を追跡してみたときに，低学年，中学年までは全国平均をこえる種目が目立っていても，高学年になったとたんに激減するケースが多くあります。家庭でも，日頃から，外遊びをすすめる，家族でスポーツ等を楽しむ機会をつくるなどを心掛けてみてください。

発　　行　平成28年12月

編集・企画　伯耆町教育委員会
所在地：鳥取県西伯郡伯耆町溝口647番地
TEL 0859-62-0927

参　　考　平成22年版
『家庭教育手帳 小学生(高学年)～中学生編』
発行者：文部科学省生涯学習政策局
男女共同参画学習課家庭教育支援室

印刷・製本　有限会社 米子プリント社